



資格試験のための 学習方法

◎はじめに

もし、あなたが、CPP 資格試験の「学習」について以下のような課題・悩みを感じておられるなら、このレポートがお役に立つでしょう。

- 資格取得する個人的なメリットを再確認したい
- 効果的な学習方法を知りたい
- チームで学習するためのポイントを知りたい
- 効率的な学習スケジュールをたてたい
- 学習時間がとれない
- 学習のモチベーションがあがらない
- 受験するかどうか？を悩んでいる
- 受験するメンバーをサポートしたい
- 試験に関するデータを知りたい

本レポートは、資格制度事務局が、多くの CPP 資格試験の合格者の方および購買・調達部門の教育企画担当者の方に、インタビュー・ヒアリング・アンケートをおこなった結果からまとめた「CPP 資格試験に合格するための学習の手引」です。

私達は、CPP の学習と資格試験を通じた知識・体験が、購買・調達業務の推進とビジネスパーソンとしての成長に必ずメリットをもたらすと信じています。あなたが CPP 資格試験制度と本レポートに関心を持たれたことは、大きなチャンスです。

十分に本レポートご活用いただけるように、事務局としてお伝えしたいことを最大限の努力でまとめました。この機会を活かしていただければ幸いです。

CPP 資格制度の具体的な活用にはついては、公式ホームページ「調達革新インタビュー」
<http://jma-cpp.jp/cppintv> (ダウンロードは http://jma-cpp.jp/interview_download) もご覧ください。

CPP 資格制度事務局

目 次

購買・調達業務に感じていた課題とは？	… 3
CPP 学習から得られるメリットは？	… 8
効果的な学習方法とは？	… 12
効率的な学習時間の確保とは？	… 16
モチベーションをあげるには？	… 18
合格者からのメッセージ	… 19
JMA 職員の受験体験	… 23
データでみる CPP 資格試験	… 29

購買・調達業務に感じていた課題とは？

業務の一環であるとはいえ、費用と時間と労力を投入して、学習・受験をするには、多くの場合、強い動機と課題があります。CPP 資格試験の合格者が、学習・受験をする前に購買・調達の業務上で感じていた課題は、どんなものだったのでしょうか？

おおむね 4 つにまとめることができます。

1. 購買・調達業務は領域が広いので体系的に理解したい
2. 標準的な購買・調達スキルを知り、自分のレベルを評価したい
3. 実務経験の少ない領域を短期で習得したい
4. 業績に貢献できる購買・調達メンバーでありたい

これらの4 つについて、学習の前に共感していただける点があれば、合格に一歩近づいたといえるでしょう。

1. 購買・調達業務は領域が広いので体系的に理解したい

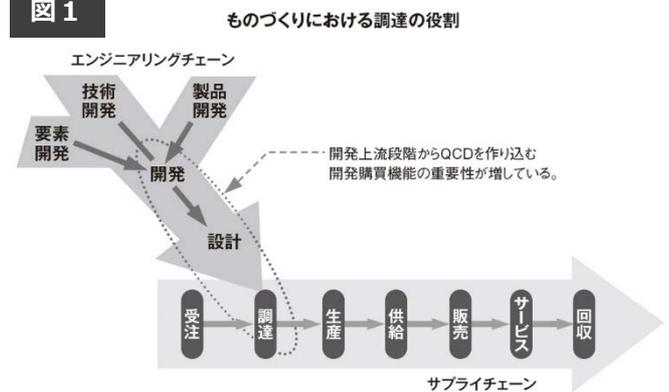
購買・調達の実務にたずさわると、必要な知識・スキルが、広く多様な領域から構成されていることに気づきます。それらは、あたかも無限の広がりがあるように感じられ、日々の業務はその広がり中で漂っているようで、不安とストレスさえ生み出します。

そのような状態から抜け出すために、MECE な（もれなく、ダブリない）全体観やフレームを手にしたと思うのは、ごく自然なことでしょう。

購買・調達領域の全体観やフレームを得るために、より広い「ものづくりプロセス」全体（図1 ものづくりプロセス「ものづくりにおける調達の役割」）から俯瞰し、

網羅的・体系的に整理したい、時代変化を見通したいというニーズをお持ちの方は少なくありませんでした。

図 1



インタビューで聞かれた印象的な言葉は、「調達業務はものを買って終わりではない」「調達の業務自体に求められる役割が変化している」などです。

そして、「今までの業務の進め方をどうやって変えればいいのか分からない」「OJT だけでは学びきれない」という課題感でした。

■ 事例

NTT ドコモ

課題だと思っているのは、資材部はものを買って終わる部署ではなくなったことです。仕事やプロセスの流れの中、いわゆるサプライチェーンの中で業務を考えていく必要があります。開発購買が前工程としてあって、後ろには物流、さらに保守、運用もあります。その中で、資材調達をどう位置づけていくのか、キチンと考えないといけません。資材部はいろんな業務を知ってないといけません。狭い視野で物事を見てはダメで、さまざまなことに広く興味・関心を持つことが必要です。資材部門のプロフェッショナルとして深く理解している人材に加え、会社の経営を理解した上での資材部の位置づけを考えられる人材が必要になってくると思います。

キャノンマーケティングジャパン

CPP のテキストには上流工程から入り込むことが重要と書かれており、弊社はなかなか入り込んでいませんでした。テキストに書かれているということは、他社調達部門でも同様の悩みを抱えている、業界は違っても悩みは共通なのだと思います。

新日鐵住金エンジニアリング

弊社の調達本部は、プロジェクト実行に必要な業務を総合的にまとめる機能を担っています。例えば、財貨・役務をどこからいくらで買うか、商務条件をどうするかといったことをベンダーと交渉して確定させたり、売買契約・請負契約を締結したり、物のデリバリーを管理して代金を支払ったりなども調達本部の役割です。そのため、従来のマニュアルや先輩から引継いだ積み上げの知識だけではなく、系統立てた調達購買に関する知識をまとめるニーズがありました。系統立てた学習手段を探していて、そのニーズに合致した CPP 資格制度を導入し、取り組んだのです。また、一般的に調達機能が何であるか、何をやっているかを十分に知っているとは言えない面もありました。それらをきっちりと整理して組み立てなおそうと導入しました。

エア・ウォーター

調達部としての戦略や企画を長期的視点で考え続けること、これが大きな課題だと感じています。私は調達部に入って、調達部の目指すべき方向性・役割の理解を徹底的にすすめました。ビジネスモデルをより良い形に変化・再構築させるには自分で考えなければならないと思い、担当として引き継いだ内容から疑問に思う部分を少しずつ紐解いていくことで理解を深めていきました。

アサヒビール

このスタディーガイドにも書いてある通り、調達の業務自体に求められる役割が変化しています。受動的ではな

く能動的に、社内外に対して働きかけることを求められています。弊社では、開発段階でマーケティング部門、研究開発部門と一緒に話し合い、より品質の高い物、必要量を最適なコストで調達するために上流工程から入り込むようにしています。サプライヤーさんとも早い段階で打合せを行う。その際に、理論的な考え方を持って戦略を提案していかなければなりません。そのための考え方の基盤を作り、業務を進化させていくには、CPP スタディーガイドの考え方が適していました。他の団体の資格も使っていて、個別のテクニカルスキルの資格はあります。しかし、調達業務での基礎知識の資格は、日本では CPP 資格制度が初めてだったと思います。

キリン

国内の調達部門は、経営に寄与する調達戦略からまだ遠いところにあるように感じています。長年調達キャリアを積んだ海外の専門人材とグローバル調達の話をしていくと、レベルの差に気付かされます。国内調達をグローバル標準に引き上げていくことが、我々の大きな課題です。戦略的視点・人材育成の両面から組織力を強化することが大切だと考えています。

水 ing

顧客が公共団体関係なので、法令遵守は大きな課題です。書類や検査のチェックはかなり厳しく、安価であれば良いわけではありません。そのため、お客様への提出書類作成や検査に対応できるサプライヤーとの協働が必要で、その面では弊社は少し特殊だと思います。

三菱重工業

点ではなく、面や線で学ぶ必要性を感じていました。例えば、様々な法規や物流関係の勉強など、個別には対応できてもバイヤーが必要とする知識が増えていきます。システム化が進んで、対応すべき業務や求められる知識の幅が広がっているのです。その中で、CPP が私の知識を広める糧になりました。

個人：井原氏

私は珍しいキャリアを積んでいます。国内工場、海外工場、本社機能と全ての購買機能を経験し、たくさんの現場を知りました。ただ、蓄積してきた知識は、もしかすると体系立ったものではないのではないかと感じていました。何か弱点があるかもしれないので、体系立てて整理されている CPP という枠組みの中で、自分の長所・短所を知ることができると思ったのです。

ダイハツ工業

人材育成は課題の一つです。プレス部品や、鍛造部品、樹脂部品などの見積もりといった個別スキルはマニュアルがあります。しかし、調達スキル全般に渡るものではありませんでした。従来は調達業務を経験する中で年数をかけて体得していたのですが、社内外でのスピードアップが激しい中、より早期の調達人材育成が必要です。

個人：今泉氏

CPP 資格制度を知ってすぐ、会社の業績悪化とともに事業構造改革が発表されました。その骨子の一つにコスト構造改革が発表されたのです。コスト構造改革の内容には、関連会社も含めた調達の一元化がありました。日々の業務やトラブル対応に追われている中で、この調達業務のやり方で本当に良いのだろうかと思っていました。また、当時為替が円安方向に変わっていて、輸入品は高騰する可能性が出ていました。淡々と業務をこなす中で、これではいけないと感じた時に、CPP 資格のことを思い出してトライしてみたのです。

2. 標準的な購買・調達スキルを知り、自分のレベルを評価したい

世間一般における購買・調達業務の標準スキルとはなにか？

自社の購買・調達業務は、「標準」と比較してどのような点で同じで、どのような点で異なるのか？

自社のレベルはどのくらいで、自分自身のレベルはどのくらいなのか？

こうした疑問は、どのような職種・業務に従事していても抱くものでしょう。また、自分自身の可能性を追求するならば、基準や標準を知りたくなるものです。

本来の購買・調達業務は論理的で客観的な説得力のある業務であり、奥深い知識を体系立てて活用すべきであると実感されているため、標準となる知識・スキルを知りたいと考えるようになるのでしょう。

インタビューでは、「調達業務が属人的になってしまっている」ため、「人によって進め方やレベルがばらばらである」「自部門や自身のスキルが他社と比べて低いのではないか」という危機感が印象的でした。

また、「社内における調達部門の立場や世間から見た自社の調達力が低いのではないか」と率直な不安をお話くださる方もいらっしゃいました。

■ 事例

中村屋

業務の属人的な進め方を、一定の方法論に共通化してルールやナレッジを共有する必要性がありました。進め方が属人的で、バイヤーによってステップやレベルがまちまちな部分があり、業務の引き継ぎにも決まった方法がありませんでした。また、購買スキルそのものの客観的な尺度を明らかにして、何がどれだけできているかを評価できるようにすることも課題でした。目標に対する達成結果は数字で見えますが、スキルそのものを評価する尺度がありません。必要なスキルの中で、何ができて何ができていないのかが、今の仕組みだと分からなかったのです。先輩を見てやり方を盗むという OJT でも、標準化という観点からは十分とは言えなかったと思います。OFFJT によって全員で同じ知識を共有して標準化できると感じていました。

新日鐵住金エンジニアリング

当時は、各事業部がそれぞれのやり方で調達をしていて、CPP 導入前に調達本部としてまとめて業務を遂行することになりました。ちょうど、CPP 資格制度が設立された時期だったので、基軸となる考え方を持つために CPP を勉強してみようとなったのです。

個人：奈良岡氏

調達は経験が物を言うイメージがあり、先輩も口を揃えて口で教えるのは難しいと言われていました。一方で、講習を受けたりするとスーツと頭に入ってきたり、腑に落ちるようなことが結構ありました。日本能率協会のセミナーで、神谷先生の「新任バイヤー早期戦力化セミナー」を受け、その流れで CPP 試験もぜひ受けたいと思ったのです。

和光堂

コスト低減の方法が担当者の腕次第になっていました。情報をうまく活用できていない状態が続いていて、結果として戦略的な施策が限定的で弱いという課題をずっと抱えていたのです。

カゴメ

業務が属人化してしまうことが課題で、長年の経験、カンやコツに頼った購買調達機能では良くないという議論がありました。また、調達業務には契約や関係法令も広く関わってきます。まったく畑違いの人材が異動してくることもあります。調達部門としては、直接部門（工場）で仕事の標準化に取り組むように、本社の間接部門（調達部）も基本業務を俯瞰して捉えるべきであると考えていたそうです。前任の部長で、私の CPP 教育担当だった方が特にそういう思いがあり、本人も CPP を取得してみて、これは俯瞰して捉えられると手応えを感じたそうです。それで、我々調達部の中で議論し、調達部員の必須スキルだと宣言し、制度化しました。

エアフィルター

当時は、交渉は人によるという風潮があり、私は話したり人を説得したりするのが得意ではありませんでした。この仕事に携わり何か身に残るようなものがないかという思いがあり、CPP 資格にチャレンジし、テキストの購入に至ったということです。

古河電気工業

個々のバイヤーの能力、目的意識は高い一方、属人的でした。自分達の立場、調達力が相対的に下がっているという問題意識があったので、サプライヤー評価を始め、開発購買にも力をいれました。教育においては、体系的な一般知識を身につけて、組織の横のつながりを強化しようとしていました。

JX 日鉱日石プロキュアメント

JX グループは新日本石油と新日鉱ホールディングスの経営統合により 2010 年 7 月に発足しました。それと同時に、経者も両社の購買部門が統合して発足したわけです。両社の購買経験者は、それぞれに育ってきた環境もキャリアも違っていて、両社とも属人的なスキルに依存している傾向がありました。そのため、業務手順や社員に求めるスキルなどのベースを決めなければいけません。調達業務に必要な教養や基礎知識は、CPP スタディーガイドのような汎用な教材であれば、社員によるメンテナンスも不要で、活用しない手はないと考えたのです。

3. 実務経験の少ない領域を短期で習得したい

人事異動やローテーションで購買・調達部門に着任されるケースにおいては、早期に、業務に立脚した知識を OFFJT で学びたいという課題を感じられます。また、経験者といえども、すべての領域を体験することは現実

的には不可能です。未経験な領域での業務の考え方を最短でキャッチアップしたいという課題感を感じていた方は少なくありませんでした。

インタビューでは、「調達部門に配属されたばかりで実務経験が少ないことに不安を覚えていた」「他社や海外調達部門とのレベルの違いを懸念していた」という不安があったという声が聞かれました。

■ 事例

オリンパス

ガイドブックの1から10まですべてを、実務で経験した人は、あまりいないと思います。輸出入の業務だけはやったことあるけども、サプライヤーの評価はやったことないとか、その逆であったりとか。それぞれ自分の担当している部分は詳しいけれどもそれ以外のところは手薄であることも少なくはない。マネジメントクラスに昇格する際にも、すべての実務を担当として経験したうえで、徐々に昇格するということは、実際には難しいと思うのです。

IHI

調達購買のグループには十数名います。その多くが文系出身で、技術系出身の人間があまりいません。設備や機器類を買うにあたって、技術的なことがわからないと、査定でも交渉でも難しい面があります。背景が分かっていないために自信が持てないというスタッフの声があり、後押ししたいという課題感がありました。また、異動の機会がないと、外の世界を知らずに考え方が凝り固まってしまうことがあります。私の部門は若手が多いので、今後どうやってスキルアップすればいいのか悩んでいる人材が多かったのです。調達業務全体でどのようなスキルを持てばよりステップアップができるかを示し、自信を持たせたいと考えていました。その時、別事業部でCPP資格制度に取り組んでいる人から紹介されたのです。

横河マニュファクチャリング

私は、購買に配属される前は工場にいました。物を買うことは理解していたのですが、購買という組織は初めてで、コストダウンというミッションを与えられても、どうやってコストダウンをしたらいいのか、わからなくて困ってしまいました。OJTが中心で、どうやったら論理的にコストダウンを進められかと模索しているときに、CPP資格制度を見つけたのです。

ソニー

私は組込みのソフトウェア設計のエンジニアでした。1年ぐらい前に調達組織に異動してきて実務経験が少ないので、調達に対する全般的な知識を早急に習得したいと感じていました。ソニーの調達領域では、各人がレベルアップするために必要なスキルやコンピテンスが可視化されています。各自のコンピテンス表を年1回棚卸ししながら進捗や教育計画を上司と話し合います。私の場合は、エンジニアから先端技術の調達を担当することになったので、できるかぎり早く調達の役割やアクティビティを習得する必要があり、複数の上長からCPP資格制度の紹介がありました。

サンケン電気

私はもともと技術部門にいました。新しい知識やスキルを身に付けられないいけないという思いがあり、調達に関する市販の本が少ない中で、必要なスキルをどう取得すればいいのかを模索して、CPPを見つけました。

キヤノンマーケティングジャパン

私は貿易業務課という部署で、輸出入の手続きと海外取引先からの仕入業務を行っていました。2015年に現在の調達2課へ異動し、海外調達と国内調達で大きな違いがあることに戸惑いました。そもそも、調達業務の基本(領域や役割とは何か)といった知識全般が足りていないことを感じていました。

4.業績に貢献できる購買・調達メンバーで ありたい（購買部門の地位を向上させたい）

購買・調達は、利益に大きく貢献できる業務です。また、特に開発プロセス、生産プロセスには大きな影響を与えます。経営層、社内関連部門、社外関係先に、その影響と貢献を説明するにあたり、背景や基準となる全体観、フレーム、考え方を得たいという課題やニーズをお持ちのケースも少なくありませんでした。

そうした考え方と知識に裏打ちされたスキルが購買・調達部門の社内地位を向上させる、とされるおっしゃる方もおられ、インタビューでは、「調達業務は利益を創出するための部門である」にも関わらず、「その役割が社内に浸透していない」「社内調整や伝票処理をやっていればいいという雰囲気がある」という状況に危機感があつたという声が多数寄せられました。

■ 事例

サッポログループマネジメント

社内で購買セクション自体の地位が少し低い面がありました。購買セクションは伝票処理と納期調整をやって

いればいいといったような雰囲気です。頭と知恵を使って利益を創出する部門にも関わらず、日陰のセクションだったので、何とか払拭したいという思いがありました。

中村屋

業務の中で社内調整の占める時間比率が高いことは課題でした。社内調整業務に問題があるという意味ではありません。しかしながら、社内調整業務は本当に購買の本来業務なのか、これが自社の購買業務ならば、購買の固有スキルや考え方を持っていないでも活かさない、あるいは必要なスキルを持っていないのか、と悩んでいました。社内調整に費やす時間がメインになってしまい、購買の業務の進め方が構築されていないと感じていました。

新日鐵住金エンジニアリング

トップが CPP 導入に積極的でした。調達の業務が社内的によく分からないという理由があったと思います。CPP 資格制度を基軸とすることで、一般の標準に沿って業務を行っているという証明になりました。

CPP 学習から得られるメリットは？

CPP の学習をする理由、個人的に得られるメリットについてのご発言をまとめるとおおむね、3 つにまとめられます。

1. 普段の業務やキャリアアップへ生かせるから
2. 自身の現状を知ることができるから
3. 客観的な考え方を学べるから

1. 普段の業務やキャリアアップへ生かせるから

CPP 合格者から多く聞かれたのは、普段の業務やキャリアアップに生かすことができるから学習したという意見でした。普段の業務で使う知識は、基本的な物事のとらえ方と経験から学ぶものの2種類があり、CPP の学習は基本的な物事のとらえ方を学ぶことに適しています。また、普段の業務では接することができない普遍的な知識を学ぶことができるため、異なる職種に従事することに

なったとしても有効な知識である、という意見もありました。

■ 事例

NTT ドコモ

CPP に取組むこと自体が、業務の遂行に必要なベースの知識を体系的に身に付けられるという点で大きなメリットです。部や組織を上げて知識の習得に取り組んでいます。調達業務に必要な知識として、言葉の意味や基本的な物事のコエ方など座学や書籍で分かるものと、サプライヤーさんとの交渉術など経験値がないと出来ないものがあります。後者の場合は経験を積み重ねていくことで身につくもので、一朝一夕には行きません。前者の場合は、自分の努力で頑張れば学べるので、まずは頑張ろうと言っています。

富士ゼロックス情報システム

私は技術者として入社し、開発をしていました。本社に異動になり、調達部門で注文書の発行や請求書の管理など、契約面の管理を担当しました。2011年に会社が中期戦略を練り直すタイミングがあり、外部委託購買は戦略を持って購買していく必要があるという話が出てきたのです。それをうけてBP（ビジネスパートナー）改革推進部という部署が新設されました。私はその新部署にアサインされ、戦略企画を担当するようになりました。今までは契約管理のみ担当していたので、BP改革推進部には調達を理解したうえで戦略企画を考えられる人が、自分も含めていなかったのです。これはまずいと思い、勉強する必要性を感じ、社外の勉強会に積極的に参加するようにしました。新しい組織が出来たときに、私と上司ともう一人メンバーがいたのですが、すごく焦りがありました。何とかしなければいけない、とにかく勉強しようと皆で色々な書籍を読み漁り、参考にできるものを毎日探していました。

NTT ドコモ

CPP を勉強して得られることは、資材調達に関わる知識だけではなく、例えばマネジメント手法など、非常に幅広い知識が必要になるので、他の部署にいても役立ちます。その意味では、せっかくのチャンスなので、ぜひ資材業務に関わっている皆さんはチャレンジして、次のキャリアに活かしてほしいと思います。

エア・ウォーター

調達という言葉は範囲が非常に広く、一度身に付ければいろいろな形で何かに活かせる知識やスキルだと、CPPを通じて気づきました。買うという行為をするのであれば、一度は勉強してみてください。試験対策セミナーでは、勉強した内容を新鮮な感覚で確認することができますし、調達という世界観が広がることを体感できます。

キリン

CPP は、単に調達を学べるだけではありません。MBAの教科書にあるような理論のエッセンスも書いてありますので、テキストの内容を学ぶことで、調達以外のビジネスにも十分活かせます。メンバーにも、調達業務のために取り組むけれど、調達から異動しても有効ですよとお話しています。企画、立案、生産、交渉など、CPPを通じて学んだことは、どの分野でも活かれます。それぞれの分野のエッセンスが凝縮されているのです。CPPを学ぶことは、調達のための資格取得だけでなく、社会人として仕事をする上でとても身になることだと思いますので、自信を持っておすすめします。

サンケン電気

物事は、いきなり実践から入っても、先輩の真似などすればある程度できる部分はあります。しかし、基礎が無いと伸び悩んでしまい、どうしてもいいかわからないことに行き当たってしまいます。基礎の重要性は私の課題としてずっとあり、それを上手く次の世代に伝承できていないと感じていました。先輩が後輩をきちんと育て、基礎をきちんと教えていく必要があります。ただ、仕事が出来から基礎をきちんと教えられるかということ、難し

と思います。CPPに取り組むことで、試験や講習、書物を通して体系的に学んだ基礎が積み重なっていくことが大切だと思います。

ネットワンシステムズ

CPPの内容はとても先進的で網羅性が高いので、購買部員のスキルだけでなく、今後のキャリアパスを形成するうえで非常に有意義なガイドラインです。基礎知識として、調達部門に限らず営業部門等様々な部門のメンバーにも役立つ資格だと思います。

和光堂

弊社では3年から4年でジョブローテーションする可能性があります。他の部門で仕事をしたとしても、購買やCPPの勉強は役に立つ内容です。研究開発部門に異動した者は、CPPで学んだ開発購買の知識が役立つと思います。購買に携わっていない人達も、一度受験ないし勉強することは非常に有効だと感じています。会社にとってもプラス、個人にとっても非常に重要なことだと思いますね。

新明和工業

一つ一つの積み重ねが自分の引き出しを増やすことになります。引き出しが増えることで、何かあったときに引き出しをパツと開けて、情報を集めやすく対策も取りやすくなります。このことが、自分の仕事の幅を広げていってくれますので、少しの時間でもコツコツやっていると今後のキャリアにも役立つのではないかと思います。

個人：伊原氏

CPP受験をすることは、自身のキャリアの整理整頓、棚卸しになります。現場で経験が少ない場合でも、工場や開発・設計の方々と同じ土俵で話ができる場面が増えま

す。知識は力なりです。弊社でもトライする後輩が増えていますので、良い方向だと思っています。

2. 自身の現状を知ることができるから

CPP合格者の中には、自身の現状のスキルレベルを把握するために学んだという方もおられました。参考書が多いとはいえない購買・調達分野では、ご自身の持つスキルが世間一般と比べてどの程度かを評価することが難しいようです。そのため、スキルのモノサシとしてCPPを使い始めたという方が多いようです。

■ 事例

JX日鉱日石プロキュアメント

CPPを通じて、自分達の置かれた状況をしっかり把握しなさいという視点を学びました。例えば、このサプライヤーはコアなのか、代替サプライヤーがいるのかといったことを整理した上で、このように付き合おう、といったサプライヤー戦略の考え方などです。私の営業所では、200~300社のサプライヤーと取引があります。それぞれのサプライヤーを区分して、評価するサイクルを回すことの重要性を改めて認識できました。コストテーブルや調達倫理なども参考になりました。我々が求められているのは、指示をうけて調達に係る伝票を処理すれば良いということではなく、できるだけ早めに上流部門に関与することなのだを再認識しました。やるべきことが明確になって、その進め方のヒントがスタディーガイドに示されているので、今後も参考にしながら改善を進められそうです。

サッポログループマネジメント

自ら問題意識を持ってバイヤー業務に取り組んでいれば、自然と備わってくるスキルがあります。私の持っているスキルが、世間一般と比較してどれほどのレベルにあるのか知りたいと感じていました。自分のスキルを検証して、自信を持ちたかったのです。バイヤーそのものの資格って無いなあ、と思って検索したところ、CPP資格制度の存在を知りました。

カゴメ

CPP のメリットは標準化だけでなく、教育をある一定レベルにすることで、力量評価ができるようになることです。例えば CPP のテキストの中で、原価低減活動の切り口として買い方、作り方等の切り口が書かれています。その切り口を課題ごとに分類して、後で分析したり評価検証したりします。その際に CPP の用語・考え方がとても役に立ちます。

水 ing

スキルのモノサシが必要でした。例えば、AさんとBさんのレベルを比較するには、ある程度の基準が必要です。当時は、10年経験したからAクラス、5年経験したからBクラスという曖昧な線引きでした。調達部門のメンバーもそれぞれ分野が違うため、各人のレベルはどれ位で、部門内にはどれ位優秀な人間がいるのか、育成すべき若手や経験の浅い人はどの領域をレベルアップすればいいのかなどが漠然としていました。私自身、調達部門に来て12年程で、社内では調達業務をこなせるようになってきていると思います。ただし、なぜ一人前の調達マンなのか、どこまでの知識を持っていれば一人前なのか、非常に判りにくかったのです。CPPのような外部資格の取得は、一つの判断材料となります。

キリン

実は、私は調達部門に異動するまで、調達とは何をやるどころか正直よくわかっていませんでした。調達とは何をすべきところなのかは、CPPのおかげで習得できました。調達に関する有効な参考書籍が少ないと感じる中、とても手短かに調達の世界を把握することができました。「調達とは本来こういうことを目指さなくてはならない」「より戦略的に、今まで以上に、付加価値を生まなくてはならない」といった志の高さをテキストから学びました。

3. 客観的な考え方を学べるから

購買・調達業務には正解がなく、新しい手法を取り入れる柔軟性が求められるため、どの手法がベストあるいはベターかを判断するための客観的な指標や考え方が必要になります。客観的な考え方は実務と異なる場で学ぶ必要があり、客観的な視点を持つ第三者が作った資料が有効で、CPPがその役割を担っているようです。

インタビューでは、「調達業務には正解がないため、客観的な判断軸がほしい」「得意な手法にこだわらず、新しい手法を俯瞰して選択できるようになりたい」という話がありました。

■ 事例

エア・ウォーター

実際の調達業務では、会社個別の事情やサプライヤーの事情もあり、絶対的な正解がない非常に難しい領域です。そんな難しい業務に、スタディーガイドが灯台の役割を果たしてくれています。CPPの考え方に沿って、今この条件であればこの解がベストあるいはベターだろうと、客観的に捉えることができるようになりました。考え方として常に振り返ったのは、ものを買うのではなく機能を買うでした。何が機能として必要なのかを軸に、購入希望者と話を進められました。マトリックス分析をはじめとする様々な分析手法もあり、その分析データを事前に準備し交渉に臨むことで、対等の立場で交渉が論理だつて進められました。

カゴメ

人によって得意なやり方があるので、CPPを通じて不得意な手法や気づけなかった手法を俯瞰してみると、今までとは違った切り口で見られます。乾いた雑巾を絞ろうとするよりも、見方を変えてみたら他にも有効な方法がある、ということに気づかされました。

効果的な学習方法とは？

合格を勝ち取るために学習するのは、どんな方法が有効なのでしょうか？ CPP 資格試験の合格者からうかがった、具体的な学習方法を以下の 6 つの項目に分類しました。

1. 社内勉強会を開く
2. スタディーガイドを読む
3. ノートにまとめる
4. 社内事務局や合格者のアドバイスを参考にする
5. 業務で CPP の知識を利用する
6. 事前対策セミナーに参加する

1. 社内勉強会を開く

社内勉強会を週 1 回程度開催し、皆で学習を行っているケースが多くありました。学習内容は、スタディーガイドの内容を輪講形式で説明しあったり、レジユメを作ったり、事前対策セミナーの内容を共有したりなどです。ポイントは、人に教えることで自身の知識も深まるという点です。経験のある分野を講師として担当すれば、仲間の経験と知識を互い分かちあえるため、効率の良い学習が期待できます。また、仲間がいることで、励まし合いモチベーションを継続しやすいメリットもあります。

■ 事例

アサヒビール

学ぶことを組織に浸透させるにはステップを踏んでいきました。まずは、グループで一緒に勉強してくださいと言っていました。事前の講習に参加して、聴講してきた内容を共有化してもらいました。勉強会で刺激を受けあうことで、良い方向に回りはじめました。私も勉強会に入って、勉強しました。一人ではなく、複数の人で試験に取り組むことで、刺激にもなり、面白さも増します。2011 年には、全員で章を分担して勉強会をしました。

和光堂

メンバー全員で勉強することで、彼ら各自の強みや弱みが分かって、どの分野を伸ばしていくべきか理解できたことが大きかったです。

カゴメ

各章で担当を決めて、予習した内容をテキストにして、自分達で模擬テストを作っています。社内勉強会は任意ですが、みんな参加します。過去の受験者からの助言もあります。出来るだけこれから受ける人達でやるようにしています。なるべく自分達で考えて、ポイントを整理してもらいます。他人に教えることはとても勉強になります。合格だけが目的だと、業務活動とつなげられないし、個人プレイになってしまうでしょう。

三菱重工業

ある部門長が、若手主体で横通しの交流会を進めていました。交流会には勉強をする会があって、調達にかかる学習をする中で、CPP の勉強会を開いていました。

ダイハツ工業

人材育成の担当課長から、業務の一環として、勉強会を始めるように言われました。週 1 回ぐらいは集まって勉強する場を作った方が、合格率も上がるだろうと。

関西電力

勉強会を午後 6 時以降に開いて、社内の CPP 事務局で作った予想問題を勉強したりしました。

三菱化学エンジニアリング

週1回の部内ミーティングの中で勉強会を開き、部内へ情報を共有・水平展開しました。50~60項目ぐらいを、1年間で毎週1項目ずつ資料にまとめて説明して、部内で議論しました。今も若手の部員が試験を受けておりますので、彼らの勉強のためにも、共通の場で話し合っています。自分自身の勉強のためにもずっと続けてきました。

2. スタディーガイドを読む

最も多い学習方法は、公式教材であるスタディーガイドを「理解できるまで何度も読む」ということです。CPPの試験範囲はスタディーガイドに書かれていることなので、ガイド内の範囲をしっかりと理解できれば必ず合格することができます。読むための時間を確保し、毎日少しずつ読み進めたという方が多いようです。

CPP事務局としては、スタディーガイドの他に、公式WEBサイトから無料でダウンロードできるPDF冊子「これからの調達部門の役割」や「CPP 調達用語集」、「CPP 学習カレンダー」の活用もおすすめします。また、スタディガイドセットの一冊である「スキルスタンダード」でご自身の経験領域、得意領域などを把握されることもおすすめします。これらをつかって、はじめにご自身の強み弱みを把握し、ざっくりと全体を理解し、スキマ時間に用語をチェックし、カレンダーで学習のペースを維持していただくと、より、スムーズに学習できるでしょう。

■ 事例

サッポログループマネジメント

空き時間に本を読んで、線を引いて、必要なことはメモしたりして勉強していました。

水ing

ホームページの用語集をダウンロードして、小さく携帯できるようにし、通勤電車の中で覚えました。あとは、とにかくスタディーガイドを読むことでカバーし、分からない部分は何度も読んで、理解を深めました。

キャノンマーケティングジャパン

4冊セットになっていた調達プロフェッショナル スタディーガイドを必死になって読み込みました。

日本信号

一通りテキストを読むのに一番時間を使いました。朝30分ずつ時間を作って少しずつ読み進めていました。

矢崎総業

夜に自宅に帰ってからもスタディーガイドを読みました。

個人：奈良岡氏

まずはCPP・B級資格の試験対策セミナーのテキストを覚えるくらい読み込むと、いろいろ興味が湧いてきます。興味がわいたところでマネジメントガイドと知識ガイドの1、2を参考書のように使って、基礎知識がついていく。すると、マネジメントガイドの内容が分かってくる、というように進めていきました。

ダイハツ工業

5月から7月の受験まで2ヶ月弱、スタディーガイドを日割りで学習しました。スタディーガイドは750ページぐらあるので、週84ページのペースです。

3. ノートにまとめる

スタディーガイドの内容をノートにまとめる。書くことで、理解が促進されるタイプの方は、ノートをつくるこ

とをおすすめします。スタディーガイドに掲載されている図表をご自身で描いてみるのも効果的でしょう。図表は、説明内容のエッセンスが凝縮されているからです。スタディーガイドは分量が多いので、重要なポイントをまとめたオリジナルテキスト（ノート）を作成することも有効な手段です。

■ 事例

サンケン電気

知識を自分の頭の中で整理するために、スタディーガイドを自分なりにまとめました。暗記はそれからでした。50時間の勉強時間を目標として CPP・B 級資格試験に組みました。

カゴメ

各章で担当を分けて、予習した内容を簡単にテキストにして模擬テストを作っています。

ソニー

セミナーテキストをベースに、重要な箇所をノートに書き起こすことをしました。

キャノンマーケティングジャパン

想定問題をイメージして、ここが出るという箇所を一問一答のようにしてみました。

富士ゼロックス情報システム

読みながら大切だなと思ったところは、何冊分もノートに書きだして、何度も自分の中で咀嚼して理解しました。電車の中でも膝の上にスタディーガイドを開いて、片手にノートを持って勉強していました。

4. CPP 合格者のアドバイスを参考にする

合格者から体験談やアドバイスを聞くことは、自身の学習の方向性を見直したりモチベーションを上げたりするのに有効です。合格者の話は成功体験なので、それを真似したり参考にしたりすることで、合格率を上げられるようです。

スタディーガイドのどの部分からどのような問題が出題されるかを情報収集することも有効な方法です。合格された方々から、代々申し送りされている問題集を独自につくっているケースもあります。（※CPP 事務局からの出題に関する情報提供は WEB サイトに掲載されている内容に限ります。出題箇所や過去問題をお伝えすることはいたしません。また、出題は多数の設問からコンピュータがランダムに選択するので、設問は受験者様ごとに異なる部分があります。この点をご理解のうえ、経験者様のアドバイスをお聞きください）

■ 事例

日本信号

自分から先輩に聞きに行き、使っていたテキストをもらって読み込みました。受験の直前には、その先輩にどのような対策をしてきたか、どのような問題がどのような形式で出るのかを教えてもらいました。先輩方の指導がなかったら、恐らく合格していなかったらと思います。

関西電力

受験希望者を集めた「友の会」を立ち上げました。友の会ではメルマガを週に 1 回発行しています。ガイドブックの各章のワンポイントレッスンと、調達に関するコラム、試験で出るポイントなどを載せています。ワンポイントレッスンでは、その内容が弊社でどう役立つかも書きました。また、CPP だけでなく、他社の取り組みの紹介や日刊工業新聞、日本能率協会のホームページ、セミナーの内容も掲載しました。自分たちだけでクローズしないよう外にも目を向けています。良い話を広く紹介し

て、課題解決のきっかけになれば、という思いもありました。

5. 業務で CPP の知識を利用する

学習内容を実際の業務に適用することで、理解を深めたという方が多くいました。学んだことを実際の業務に生かすことは、体感をともなう復習になり、理解の促進につながります。また、理解が深まっていない箇所をあぶり出すことができるため、そこを重点的に学びなおして理解向上を進めた方もいました。

■ 事例

キャノンマーケティングジャパン

学習したことや覚えたことを現場で意識しながら実践しました。本を読む以上に、自分の身になって覚えられることを実感しました。勉強時間は限られていたので、そのような取り組みを続けました。

関西電力

我々が調達する設備にテキストの内容を当てはめた資料を水平展開するなど、CPP と普段の業務と紐づけて率的な勉強ができました。覚えるのに苦労しましたが、社内だったらどうしているかを思い浮かべながら読み進めると、理解が進みました。

矢崎総業

工夫したのは、学習と仕事を切り離さず、テキストの内容を日常業務の中で確認し、学習した内容をそのまま実践しました。具体的に言うと、戦略の作成や新規の業者開拓の実践です。業務の中で活用しながら復習するので、セミナーや自習といった座学のインプットは、学んだことを活用することが重要です。実務で実践すれば表面でなく、本質である原理・原則の理解が促進されると思います。

関西電力

ガイドブックの全章について、当社の調達業務との関係性を4段階に分類して、◎は「業務に直結するので必読」、△は「製造業向けなので教養程度。ただし受験には必須」などと整理しました。

エア・ウォーター

いかに日々の業務の中で CPP を意識するかを心がけています。業務と学んだことを対比させながら、業務を通して復習することで、理解できている・できていない、覚えている・いないといったところを確認しました。業務中に覚えていないところを確認できれば、わずかな時間は覚えることに集中できると考えた訳です。

6. 事前対策セミナーに参加する

日本能率協会が主催している CPP 試験対策セミナーに参加することは、合格を目的とした受験対策としては、最も有効です。セミナー受講者の合格率向上が確認されています。

同期受験される仲間から、代表となる数人が、試験対策セミナーを受講し、他の仲間に共有するというケースもあるようです。

また、セミナーの内容は単なる受験対策ではなく、実際の業務にも役立つ内容が学べるという意見もありました。

■ 事例

中村屋

会社のバックアップであそこまでポイントをしばった試験対策セミナーに参加できるというのは、対策ができているということだと思います。

ソニー

試験対策セミナーは非常に助かりました。スタディーガイドに解説を加えて、実務経験を積む前に重要度の濃淡をつけてもらえるセミナーだったので、この部分が大事だというのが分かりました。試験対策セミナーなので、試験のための学習が目的のセミナーなのでしょうが、実務においても大事なところがわかるセミナーで、とても良かったです。

日本信号

JMA 主催の直前対策セミナーに参加しました。そこで得られた知識も含めて合格できました。

NTT ドコモ

社内制度を整備して、直前の試験対策セミナーに参加できるようにしました。

アサヒビール

事前の講習に参加して、聴講してきた内容を共有化しました。

横河マニュファクチャリング

今回、始めて対策セミナーを受講したので、この経験を次の受験者に伝授しつつ、定期的に対策セミナーを受けられるようにしたいと思っています。

効率的な学習時間の確保とは？

時間をつくることは常に悩みのたねですね。CPP 資格試験の合格者に、どうやって学習時間を確保したかをうかがい、4つの項目に分類しました。

1. 帰宅後に勉強した
2. 通勤時間中に勉強した
3. 業務内で CPP の知識を活用して復習した
4. その他

それぞれについて、インタビューの内容をまとめました。

1. 帰宅後に勉強した

業務を早く切り上げて早く帰れる方は、帰宅後に勉強しているようです。早朝に起床して学習したり、カフェなどに立ち寄って学習したりした方もいます。

■ 事例

エア・ウォーター

CPP を意識しながら業務し、思い出せなかったことは、自宅に帰ってから覚えなおすことを繰り返しました。

水 ing

とにかく時間を作るしかないので、寝る間も惜しみました。業務中に勉強することは出来ませんので、家でなんとか時間を確保しました。

三菱化学エンジニアリング

1ヶ月弱の間で、昼間は業務をこなしながら、夜は電車の中や家に帰ってから、ひたすらガイドブックを読みました。

ソニー

試験対策セミナーの受講後は、自宅に帰ってから寝るまでの間に2時間と決めて、毎日継続的に学習することを、心掛けました。本来は継続的にやった方がいいと思うのですが、なかなか時間のバランスを取るのが難しいと思います。私の場合は試験対策セミナーを受講した後に集中的にやりました。

サンケン電気

仕事が終わったら早々に帰りまして、1日2時間ぐらい毎日勉強していました。合格者の平均勉強時間が50時間ぐらいだということを伺っていたので、まずはその50時間を目指して勉強しました。

2. 通勤時間中に勉強した

通勤時間の電車の中で勉強している方がいました。スタディーガイドを持ち歩くのは大変なので、まとめ直したノートや、モバイルデバイスにPDFを保存して持ち歩いていた方もいました。

■ 事例

キャノンマーケティングジャパン

勉強に多くの人が通勤時間を使っているようですが、私も同じです。

個人：今泉氏

私の勉強場所はもっぱら電車の中でした。片道一時間半ぐらいの通勤時間です。

IHI

試験直前対策セミナーを受けて、そこから受験するまで電車の中などでテキストを読みました。

3. 勤務先で勉強した

業務中でCPPの知識を活用して復習した（「どうやって勉強するのか」の章の「業務でCPPの知識を利用する」を参照ください）

受験仲間がいる場合は、勉強会の定期スケジュールを組み、強制的に時間を確保する。

4. その他

合格者の方々は、さまざまなスキ間時間を利用して勉強しています。大切なことは、毎日少しずつでも学習を続けることのようにです。継続的にペースを保つためには、カレンダーで予定と実績をチェックすることが有効です。WEBサイトから無料でダウンロードできる「CPP学習カレンダー」をご活用ください。

■ 事例

日本信号

朝30分ずつ時間を作って読み進めていました。一日のスケジュールに勉強時間を組み込んで、そのスケジュールを崩さないように少しずつ、コツコツやっていくように心がけていました。

IHI

直前の休みの日に集中的に一人にしてもらって勉強しました。家族の協力あつての合格です。

富士ゼロックス情報システム

毎日、電車の行き帰り、会社の昼休みと、早朝 5 時に起きて朝食までの時間、夜帰宅してから寝るまで、とにかく勉強していました。

モチベーションをあげるには？

どんなことであれ、ご自身の可能性に挑んでいる人は、モチベーションの浮き沈みを体験するものです。合格者が、どうやってモチベーションを維持したかをひろいあげてみました。

1. 周囲と共有する
2. 合格者インタビューを読んだ

の2つです。

1. 周囲と共有する

自身が受験することを周囲や同じ部のメンバーあるいはご家族に知らせ、受験チャレンジへの、応援のムードを作り出している方がおられました。また、周囲の CPP 合格者が活躍する様子を見て、負けられないと自分を奮い立たせている方もいました。

真剣に挑戦する人を応援したい人は少なくないものです。こうした状況に身を置くことは、CPP 受験においても有用なようです。

■ 事例

富士ゼロックス情報システム

自分に対してプレッシャーをかけるため、資格を取得することを業務目標に入れました。結果が自分の業績評価に反映されますので、一生懸命頑張ろうと、自分を追い

キリン

ランチタイムを利用して有志で勉強会を開き、上下の関係なく助け合って取り組んでいます。

込みました。また、家族全員にも「お父さん合格するからね」と宣言しました。一番上の娘が中学生で、「勉強したいことがある」という時期でしたので、朝 5 時に起きて一緒に勉強しました。娘が頑張っていて、私が勉強していないと「お父さん何やっているの」と言われるので、そういったことでも自分を追い込んでいきました。

三菱重工業

一緒に学んでいる同期に対して、競争意識はありました。

NTT ドコモ

立場上、部のメンバーに資格の取得を促していかないといけないため、自ら奮い立たせて勉強する必要性がありました。

新日鐵住金エンジニアリング

CPP の必要性を認識している周囲の者が学んだ知識を業務に活かすことが大切です。職位が下の者も含め、周囲の人達が、一生懸命学び、知識を身につけて行くのを見て、ベテランが、それでいいのか？という思いを抱くというのは自然なことだと思います。トップがいくらやれといっても、やらない人はやらないですし、無理強いはしないということです。

アサヒビール

勉強をしたがらない人も、経験の浅い人達が資格を取得し始めたことで、勉強することが大事だという雰囲気が変わりはじめました。

麒麟

まず部長を含むリーダー層が勉強して、とても良いことが書いてあるという考えを上層部と共有し浸透させました。メンバーにはそのあと普及する形をとりました。部長が率先してメンバーと一緒に受験して合格したことで、このことが組織を変えるのに重要な契機になりました。若い人達にやりなさいと命令するだけでは、絶対についてこなかったと思います。

2. 合格者インタビューを読んだ

合格者の体験談を読むことで、合格の気持ちをイメージでき、CPP 資格者として活躍するビジョンを描くことでモチベーションを上げられるようです。CPP のホームページには多くの「調達革新インタビュー」が掲載されているので、スキマ時間や休憩時にお読みいただき、モチベーションアップのために役立ててください。

■ 事例

キャノンマーケティングジャパン

モチベーションを上げるため、CPP 公式サイトで公開されているインタビューをよく読むようにしました。

麒麟

合格者全員に、どのような勉強をしたか、どのような気付きを得たか、このような点で役立つ、といった内容の合格体験記を書いてもらい、部内で共有しています。

合格者からのメッセージ

合格者からのメッセージをまとめました。CPP は出題範囲や学習領域が多様な試験ですが、学習すれば必ず合格できます。また、学んだ分だけ必ず業務に役立ちます。CPP 試験への合格はスタートラインにすぎません。CPP の知識を業務で活用するためにも、学習し、試験に挑戦してください。そして、あなたが、次のチャレンジャーの方々にメッセージを送る立場になってください。CPP 資格試験事務局は喜んでインタビューにおうかがいいたします。

1. CPP で学んだ知識は業務へ生かせる

CPP に合格するために学んだ知識は業務で役立っているので、学習は無駄にならないから頑張してほしいとい

うメッセージが多く寄せられました。CPP 資格の使命は、「調達プロフェッショナルの育成」であり、どのような業種業界の調達分野の方であっても、学んだ知識を業務で生かすことができるように設計されています。

■ 事例

川崎重工業

CPP は、調達業務における知識や技術を体系的に学ぶことで、効果的かつ効率的に実務経験を積むことができます。有効活用してください。

三菱重工業

教科書が分厚いので、心理的に大変だと思いますが、調達の仕事が体系づけて理解できるのと、仕事の見方が変わるので、仕事がきつと面白くなります。大変な部分もありますが、ぜひ頑張ってください。

ネットワン

テキストを読み込むと、調達の世界はこれだけ広いのだと分かって、自分の仕事に誇りが持てました。これから調達業務をやっていく上で自信が深まったので、ぜひ挑戦していただきたいです。

新日鐵住金エンジニアリング

CPP 資格制度は、学習したことが購買・調達の実務に非常に役立ちます。系統立てて知識を身に付けるのに非常に有効なツールなので、広く使うと良いと思います。

アサヒビール

CPP を学ぶことで、自社における自分の業務の強み、弱みが見えてきます。客観的に業務を見直せることが、CPP 資格制度の大きな利点だと思います。そういう部分を意識して私も活用していきたいですし、活用されると役に立つ方がいらっしゃると思っています。

2. 仕事の幅・キャリアの選択肢が広がる

仕事の幅やキャリアの選択肢が広がるため、合格したほうが良いというメッセージを送っていただきました。調達業務に必要なスキルは、さまざまな学問領域から構成されています。CPP では、調達に必要なさまざまな学問領域を網羅するように範囲が設定されています。そのため、調達業務の幅が広がるのはもちろん、他の職種へ異動しても、有用で普遍的な知識を得ることができるのです。

■ 事例

ダイハツ工業

ご自身のスキル向上や社内での将来展望を実現するためには、まず基礎をしっかりとすることが大事だと思います。CPP 資格試験にチャレンジするのなら、この機会に自らの業務の経験を集約することが大事です。スタディーガイドに書かれていることを勉強することで、次のステップに役立て応用していくことができます。

個人：井原氏

CPP 受験をすることは、自身のキャリアの整理整頓、棚卸しになります。現場での経験が少ない場合でも、工場や開発・設計の方々と同じ土俵で話ができる場面が増えます。知識は力なり、です。

和光堂

自らの業務の課題や自部門の問題に限らず、他部門や会社組織の強み弱みの課題、見過ごされがちだった大事なことも、CPP を通じて見えてくると思います。良い機会だと思うので、プレッシャーに負けずに頑張ってください。

NTT ドコモ

CPP の勉強は、資材調達に関わる知識を習得できるだけではなく、幅広い知識が必要になるので、例えばマネジメント手法など、他の部署にいても役立つ知識がたくさんです。せっかくのチャンスなので、積極的にチャレンジして、次のキャリアに活かしてほしいと思います。

ネットワン

テキストの内容は先進的、かつ網羅性が高く、スキルや今後のキャリアパスを形成するうえで、非常に有意義な

ガイドラインであり、資格です。基礎知識として、調達部門に限らず営業部門など様々な部門のメンバーにも役立つ資格です。

エア・ウォーター

CPP を勉強することで、調達業務は非常に範囲が広いと分かりました。逆に考えると、身に付けてしまえば、いろいろな形で必ず何かに活かせる知識やスキルです。物を買う、販売のために仕入れる、という行為をする方であれば、一度は勉強していただきたい。C P P 資格取得に、積極的に挑戦していただく価値は充分にあります。調達という世界観が広がることを体感できると思います。

キリン

CPP に挑戦することは、単に調達を学ぶだけではありません。MBA の教科書のような理論のエッセンスも書いてありますので、調達以外のビジネスにも十分活かせると感じます。メンバーにも、「調達業務のために取り組むけれど、もし調達から異動しても有効ですよ」と話しています。企画、立案、生産、交渉など、CPP を通じて学んだことが活かない分野はビジネス上ないと思います。それぞれの分野のエッセンスが凝縮されているのです。CPP を学ぶことは、調達のための資格取得だけでなく、社会人として仕事をする上で身になることなので、自信を持って私もおすすめします。

新明和工業

一つ一つの積み重ねが自分の引き出しを増やすことになります。引き出しが増えると、何かあったときに情報を集めやすく、対策も取りやすくなると思います。このことが、自分の仕事の幅を広げていってくれます。少しでもいいから時間の合間にやっていけると思っていますので、受験頑張ってください。

三菱重工業

合格するまでは、業務の合間を見ながら時間を工面したり、気持ちの面でも強さが必要だと思います。ただ、その分だけ自分の業務の幅や視点も広がり、自信にもつながると思います。ぜひ頑張ってください。

3. 若手や異動したばかりの人におすすめ

合格者の中には、自分が若手だったり、調達部門に異動したばかりの頃に CPP を受験して、とても役に立ったため、若手や異動したばかりの人にこそ頑張ってもらってほしい、というメッセージを寄せられた方もいました。他の多くの業務と同様に、購買・調達業務の遂行には、知識と経験の両方が必要です。購買・調達の知識は CPP で効率よく修得することができ、知識を習得しておくことで業務の経験から学べるが増えます。そのため、調達の経験が浅い方こそ、チャレンジしてほしいというメッセージが寄せられました。

■ 事例

関西電力

私は CPP の勉強を通して調達のいろはから、それぞれの業務、課題まで色々なことを学ぶことが出来ました。ここまで体系立てて整理されているテキストはないと思います。特に若手の方は普段の業務を見つめ直すときに活用できると思います。とりあえず手に取って読んでみたら素晴らしさが分かると思うので、どんどん積極的にチャレンジしてください。

水ing

スタディーガイドは調達業務に関して体系的に整理されているので、学習することで調達業務に関するスキルを早く身に付けられます。スタディーガイドのボリュームに負けず頑張ってください！

個人：奈良岡氏

受けたほうが良いのは、経験が1年目・2年目の方だと思います。業務で経験していないことも知れて、早い成長につながります。試験勉強とはいえ、やると仕事のアイディアも浮かんできます。ぜひ合格にむけて頑張ってください。

日本信号

初期配属で調達の仕事をするようになった方などは、業務も大変で分からないことも多く、時間を作るのはとても大変だと思います。ですが、勉強した分はその後に生かすことができます。少なくとも、知識を持つことで、その後の経験から学べるが増えますので、CPPを受けるチャンスがあるのであれば、積極的に受けていただければと思います。

ソニー

調達は範囲が広いので、実務で経験できる領域は限られてきます。そういった中で、網羅的に体系的に知識を得られるCPPはお勧めできます。特に、私が感じているのは、新たに調達に異動された方が、最初にチャレンジする資格としては、最適だと思いますね。

4. 勉強すれば必ずとれる

最後のメッセージは、CPP 資格試験は勉強を続ければ必ず合格できるというものです。合格者の方からは、スタディーガイドを最初に見たとき、その分量に圧倒されたという話をよく聞きました。しかし、CPP 試験の範囲はスタディーガイドに書かれている内容であり、スタディーガイドを使って勉強を続ければ、必ず合格できます。

本の厚さに圧倒されず、毎日少しずつ学習を積み重ね、合格を勝ち取ってください。

■ 事例

オリンパス

勉強して感じたのは、真面目に勉強すれば、必ず合格できるいい資格だなということです。ベテランの方も、一度ゼロから勉強してみるの、とてもいいことだと思いますね。

JX 日鉱日石プロキュアメント

決して簡単な試験ではないですが、勉強すれば、CPP・B 級資格は絶対に取得できます。試験をいい機会と捉えて、自分の購買業務知識の整理に活用してください。

カゴメ

バランス良く出題されるので、勘で受かるような試験ではありません。各章バランス良くポイントをおさっていくのが、結果として近道だと思います。ぜひ全体を俯瞰して計画的にやっていただければと思います。

サッポログループマネジメント

自らの業務の範囲以外でも広く出題されますので、自分の弱い領域は何か、ということを見つけてそこを補完するように勉強するのが合格の近道だと思います。自分の専門領域についてはおそらく得点できると思いますので、不得手なカテゴリーを補完するのが全体の点数を底上げする上でいいのかなと思います。2~3 年問題意識を持って業務に取り組んでいる方であれば、専門用語をしっかり覚えられれば合格できると思います。

CPP 資格制度事務局 勝田の受験体験記

CPP 受験を体験しなければすべてを伝えきれない

——日本能率協会の勝田さんに CPP 受験の学習方法についてインタビューさせていただきます。

勝田さんは、このインタビュー時点から2年前の2015年の7月期に CPP 資格を受験され、B級資格に合格したのち、A級資格にも合格されています。

勝田さんは、CPP 資格制度の主催団体である日本能率協会の職員であり、主に教育・研修の企画のお仕事をされています。購買・調達部門の業務をしているわけではないので、直接的に、お仕事に役立つ内容ではないですね。

なぜ、受験をすることになったか、試験に合格することを目的とした学習方法はどんなものであったかを中心に伺っていきたく思います。

まず受験当時の勝田さんのお立場や役割を教えてくださいいただけますか。CPP 資格制度の事務局ご担当になったばかりだったのですか？

勝田

私は2015年の4月に日本能率協会に入職しました。入職して最初に配属されたのが、製造業のお客様に対して、教育・研修をご提供する部門です。その中で、「購買・調達」というテーマに携わることになり、CPP 資格制度を担当することになりました。

それまでに、購買・調達分野は全くなじみがないわけではありませんでした。前職では半導体を扱う専門商社におり、営業・マーケティングをしておりました。その当時の、私のお客様が購買・調達の方々だったのです。したがって、比較的身近な分野だったこともあり、CPP 資格制度の担当になった次第です。

——CPP の資格試験を受験する前に、業務上でどんな課題や不安を感じておられたのでしょうか。

例えば購買・調達の分野の教育事業を担当するために CPP 資格試験の内容を理解したかったとか、それを受験されるお客様の気持ちを理解してみようと思われたとか、何かそういった課題や不安を感じておられたか。

勝田

まず当時は、私自身が日本能率協会ではじめて担当する業務ですので「日本能率協会として、CPP 資格制度という事業をどのように打ち出していきたいのか、どのように伝えていきたいのか」を、理解したいと思いました。また、調達プロフェッショナルのスタディガイド（以下、スタディガイド）や試験問題などの内容がどのようなもので、日本能率協会として何を伝えたいのか、をしっかりと押さえないという気持ちでいました。



——具体的に、CPP 受験のきっかけとなった出来事はありましたか？

勝田

まず、自分自身が危機感を持っていました。自分自身が学習と受験を体験しなければ、お客様に CPP 資格制度の全てをお伝えすることができない、とっていました。そういう危機感を持ち、私から上司に「受験したい」旨を相談しました。

広範囲の試験内容の克服法とは？

——CPP の試験学習をするにあたって、何か戸惑うことや障害となるようなことはありましたか？

勝田

前職において、購買・調達の方々にサプライヤーとして関わっていましたが、その知識と経験がどこまで通用するのだろうか、という不安がありました。

また、スタディーガイドを見て学習しようとした時に、そのページ数と範囲の広さには驚かされました。約 900 ページあり、これはしっかり学習しなければいけない、という焦りを感じたのを記憶しています。

——ご自身が以前から持っていた知識で通用するかという点と、学習しなければいけないボリュームの多さに戸惑いを感じたというお話ですが、それぞれをどの様に解消しましたか。

勝田

範囲が広いので、「自分には難しいな」と思った部分が多いことは否めませんでした。

そこで、まず「900 ページ全てを読む」ことから始めました。

読んでいくうちに気づいたことは、購買・調達の方向けの教材ではありますが、実は、ものづくりやサービスなどのビジネスを俯瞰するための知識や考え方が濃縮されていることです。

そこで、まず、自分がこれまでに業務で関わったことのある分野を読むことにしました。そうすることで、自分のこれまで持っていた知識をより確かなものにするこ

とが出来、そこに購買・調達の知識を肉付けできると思ったからです。

これから学習をはじめの方、受験される方の参考にしていただきたいのですが、CPP 資格試験の学習を支援するために、日本能率協会から『これからの調達部門の役割』という小冊子を発行しています。CPP 資格制度の公式ホームページから無料で PDF をダウンロードできます。この『これからの調達部門の役割』を読むことで、今の時代に必要な、購買・調達のあるべき姿や、役割という全体観をつかむことができました。

これはその後の学習にとって非常に役に立ったと思っています。

——周囲の方から何か支援を受けましたか。

勝田

まず日本能率協会からは、職員の業務理解のための受験ということで、受験料と公式テキストのスタディーガイドを提供していただきました。

私は、これまで多くの CPP 資格に関するインタビューやヒアリングをしてきましたが、多くの合格者が、費用を勤務先が負担してくれてありがたかったと述べておられました。受験料、スタディーガイド、試験対策セミナーなどを提供していただけるのは受験者にとって非常にありがたいことです。

また、投資をしてもらっているプレッシャーもありましたが、私自身では良い意味でモチベーションのひとつになったことには間違いありません。

まだ、私が入職間もない頃でしたから、この資格は是が非でも取得したいという気持ちではいました。

おすすめの3つの学習方法とは？

——そのように学習された中で、最も良い学習方法というのは見つかりましたか。あるいは、受験後に「こうしていればより良かった」と感じたことはありますか。

勝田

三つあります。

まず一つ目は、公式サイトに掲載されている「調達革新

インタビュー」を読んで受験者の方がたの声を徹底的に参考にし、学習に取り入れたということです。

現在も継続して取り組みを進めていますが、CPP 資格制度の公式 WEB サイトにて、お客様の声として「調達革新インタビュー」を公開しております。

そこに書かれている既に受験を経験された皆様のインタビューを全て読みました。

その中で学習の方法だけでなく、お客様がどういう気持ちで、どういう志を持って受験されたのかというところも読み、自分自身のモチベーションアップにつなげていました。

二つ目は、自分のノートを作るということです。

スタディーガイドを読んでインプットしているだけよりも、自分の血と肉にはするために、アウトプットしていくことは大切だと思いました。

アウトプットのひとつとして、自分でノートを作って、特に分からないところを中心に書き出しをして、さらに理解を深めていくようにしました。

三つ目は、試験対策セミナーです。可能な限り受講することをおすすめします。

スタディーガイド自体が膨大な量なので、自分の中で知識を整理するのは、どんな方法をとっても限界があると思います。

試験対策セミナーでは講師からのアドバイスや演習などがありますから、よりインプットが深まります。

また、セミナー会場には同じ志を持った受験仲間たちがたくさんいますので、それもモチベーションを上げる大事な要素になると思います。

不合格の経験が合格につながった理由とは？

——CPP を実際に受験してみていかがでしたでしょうか。

勝田

実は、私は最初の試験で不合格になっているのです。2015 年 7 月期で一度落ちて、7 月期内でもう一度受け直して B 級に合格しました。

やはり最初に不合格になった時は、非常に焦りを感じました。

会社に投資してもらっていますし、学習時間は全部で 30 時間から 40 時間くらいで、他の受験者様と同じくらいあったにも関わらず落ちてしまったのです。「これはまずいな」という危機感にかられました。

1 回目の受験の際にどういうところが出来なかったという目途は付いていたので、そこを重点的に読み直したり、セミナーの資料の例題を解き直したりして復習しました。

そして合格することができました。

合格して、純粹に嬉しいと感じました。時間を割いて学習したことに対して成果が出たので、嬉しかったです。こういう嬉しさは他の受験者の方々も恐らく感じ取っていると思いますので、購買・調達に携わる方々にも是非 CPP 資格制度を広めていきたいなという思いを更に深く持つようになりました。

また、CPP 資格制度の事業と関わらなくなったとしても、この購買・調達の知識は、社会人・ビジネスパーソンとして必要な知識が散りばめられていると感じています。そういう意味では、合格から 2 年ほど経ちますが、製造業に携わる人間、ないしは一社会人としてこの CPP という資格を持っておいて良かったな、いろいろなものに通用する基礎固めが出来たなという感想を抱いています。

——CPP の学習が調達以外でも社会人として役立つというお話でしたが、具体的にどのような部分が役に立ちましたか。

勝田

特に社会人として大事な知識だと思ったのは、コンプライアンスや CSR など、社会的な責任に関わるところです。

どのような仕事をしていても取引先というのは必ず存在するわけで、そこに対する付き合い方はとても大事になります。

具体的には下請法や Win-Win な関係作りの方法、お客様を我々の利害関係者と捉える考え方や、ステークホルダーの一員として認める考え方、共に成長していくための知識やノウハウなどがたくさん詰め込まれています。

効率的な学習方法とは？

——大体の学習時間が30~40時間というお話でしたが、その学習内容と時間配分の内訳は実際どれくらいだったのでしょうか。

ガイドを読み込むのにどれくらいの時間がかかったのか、ノートにまとめるのにどれくらいかかったのか、目安を教えてください。

勝田

自学自習が28時間で、試験対策セミナーは2日で12時間、合計40時間です。

——例えば1日30分ずつくらい毎日のように学習していたのか、週末にまとめてやる方式だったのか、勝田さんの場合はいかがでしたか。

勝田

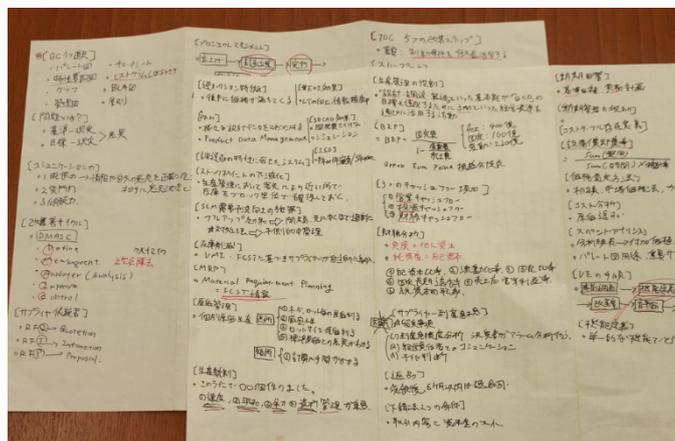
私は片道20~30分、往復の通勤時間はスタディーガイドを持ち歩いて読んでいました。また自宅では集中できないので、カフェなどで学習しました。

——セミナー以外の時間だと、スタディーガイドを読み込む時間と分からない部分をまとめたり書き出したりする作業が殆どということでしょうか。

勝田

そうですね。

——書き出すのは結構時間がかかったのではないのでしょうか。



勝田

そうですね。

A4サイズのシートが全部で10枚くらいになりました。章立てしたりキーワードを付けたりして、自分が分からないところを書き出していました。

——今思えば、これをやっておくと効率的だったな、というようなことはありますか。

勝田

「調達革新インタビュー」でいろいろな事例を聞いて思ったのは、まずスタディーガイドを手にしたら、最初にスタディーガイドの中に含まれている「スキルスタンダード」を必ず読むべきだということです。

このスキルスタンダードには、スタディーガイドの内容全般に関わるスキルチェック項目があります。

自分のスキルがどれくらいなのかということ、学習をはじめめる前に客観的に把握できる重要なツールです。

このスキルチェックをすることにより、自分がどのテーマに弱いのか、強いのかという学習の方向付けができると思います。

例えば間違えた箇所を中心にスタディーガイドを深く読み込んでいくとか、理解できることは後回しにするなど、学習の優先順位が見えてきますので、有効性が高いです。

——公式WEBサイトでは、「調達用語集 (PDF)」がダウンロードできるようになっていますが、活用されましたか。

勝田

「調達用語集 (PDF)」は辞書代わりに使っていました。学習を進める中で困った時にだけ使う、という使い方をしていました。

受験するうえで一番大事なことは？

——今後CPP資格試験にむけて学習しようと考えている方、あるいはその周囲にいる方々へ、メッセージをお願いいたします。

勝田

まずは、ご自身が「この資格を受けたい」と思う気持ちが一番大事だと思います。

「会社から受けさせられる」というような受け身の気持ちで取り組むと、合格にたどり着く道のは長くなると思います。

なぜ思いが大切かというと、学習するボリュームが非常に大きく時間がかかるからです。受験期間も年に2回と制約がありますので、忍耐力やモチベーションを継続していかないと合格するのが難しい資格です。気持ちをしっかり持って取り組んで頂きたいと思います。

やる以上は購買・調達の知識をマスターすることを大事にして頂きたいですが、一般社会全般的に必要な知識も学べますので、この受験の機会を大事にしてください。

——受験者をサポートする周囲の方、上司の方、同僚の方に何かお伝えしたいことはありますか。

勝田

もしサポートされる方々が CPP 資格試験を受験されていないのであれば、是非一緒に受けていただきたいと思います。もしくは、まずはご自身が最初に受けてください。

やはり、すぐに合格するのは難しい資格ですので、まずはご自身が経験されて、合格してからサポートしてあげるとするのが良いと、様々な方へのインタビューを通して感じています。

——受験をしていない人は是非受けてからサポートしたほうが良いというお話でしたが、それでもやはり受験することが難しい方はいらっしゃると思うのですが、そういう方々でもサポートできることを教えてください。

勝田

試験と一緒に受けるのは難しいということであれば、何を学習しているのかを理解してあげるということは大事だと思います。

小冊子『これからの調達部門の役割』や CPP スタディーガイドの目次項目などで、学べる内容に、少しでも触れていただければと思います。

業務中は時間的制約がありますので、会社によっては難しいかと思いますが、具体的なサポートの仕組みとして、業務外のサポートも必要だと思います。

例えば、ある会社の例ですと業務時間外に受験者同士で会社の会議室で自主的に勉強会をするということをして会社側に理解してもらうなど、業務内、業務外にそういった広い目でのサポートをしていただけると、受験する方々も気持ち良く試験に臨むことができると思います。

CPP の知識が周りに与える影響とは？

——ありがとうございます。

先ほどの何を学習しているのか理解することが大切というお話ですが、受験をしないにしても上司の方も目次を見たり、スタディーガイドの中身を見て一緒に学習していただくことによって、どのような関係が生まれたり相乗効果が生まれるのでしょうか。

勝田

受験をすることだけが最終的なゴールではないと思います。CPP の学習で多くのメンバーの方が購買・調達の知識を身に付けていただくと、調達組織の全般的な組織力を上げることに繋がると思います。

そして同じ方向に向かって調達の戦略を考え、施策を打っていく組織マネジメントの一つとして、この資格を活用していただけていると思っています。メンバー皆さんの共通認識がないと、方向性や戦略を立てていくことは難しいですからね。

周囲の皆さんはそれを理解してあげる広い心を持って一緒に進化してほしいな、という期待を持っています。例えば、開発購買などという概念は、全く知らない人はそんな考えを持ったことすらなく、深く知らないですよ。調達は他部門から言われたものをただ購入すれば良いという従来の受け身姿勢の考えを持つ人が、部下に CPP を学習してこいというのは、本末転倒だと思います。そういう上司の方々は、受験しないとしても、重要テーマの中身というのは押さえていただけないと、この資格を組織で有効活用するのは難しいかなと思います。

CPP 学習カレンダーでペース配分をつかむ？

——勝田さんの助言に従って、勝田さんが受験した頃には無かった「CPP 学習カレンダー」というものを制作しました。公式サイトから無料でダウンロードできます。こんな風に使えば良いのではないかなとか、ご自身の受験当時があったら、こう使えたな、という思いがありましたら教えてください。

勝田

スケジュールを組むに当たって、なるべく試験の会期の最初に受験をすることをおすすめしたいです。例えば7月であれば7月第1週、もっと言えば1日です。何故かといいますと、ここ最近 CPP の受験者も増えており、早く申し込んで頂いたほうが自分の希望の日程で受験できるということ。そして早く受けていただいて不合格の場合でも、同じ期の中で再受験ができるからです。このように早期に受けるとメリットが大きいので、受験日をまず決めていただいて、それを逆算して学習スケジュールを立てると良いと思います。たとえ受験が遅くなったとしても、いつ受けるという日にちを先に決めて準備することは、学習スケジュールを組む上で大事だと思います。

——学習する中で、いつこの部分を学習すると予定を立てたり、あるいはいつこの部分を学習したという実績を記録したりすることでペースを保つ、ということはお自身でなさっていましたか？

勝田

あまりできていませんでした。ペース配分を決めて、今日はここを学習するか明日はここをやるというのが、あまり得意ではなく、出来ていませんでした。ただ、スタディーガイドを手にしてから1週間、2週間で全ページを読んで、まず全体を掴むというところは集中してやりました。その後は、学習方法のところでも触れましたが、分からないところを重点的にノートにまとめるなどの方法で、コツコツ学習していく方法で進めました。

——学習カレンダーを企画制作した背景には、ペースを管理しながらできれば良かったなという思いもあったということでしょうか。

勝田

はい、そうですね。

——ありがとうございました。

CPP 受験での5つの気付きとは？

勝田

最後に、CPP を受験して気付いたことをいくつか書き留めていたものが、今私の手元にあります。CPP 資格制度事務局として、学習者、受験者として得られた気づきです。合格を目指される皆様のご参考になればと思い、一通り読み上げます。

一つ目、組織や戦略など、調達以外に必要なことを、ものづくりを俯瞰した視点で学習できる。

二つ目、フレームワークが多くてロジカルな考えが多く、すぐ実践的に使える。

三つ目、バイヤーだけでなくサプライヤー、供給する側としてもあるべき姿というものを学習することができる。

四つ目、全般的にしっかりと各概念が説明されていて分かりやすい。

五つ目、当たり前の知識を点と点でして覚えていたことが、CPP を学習することによって線となった。これまで暗黙知だったことを形式知として、改めて学習することができた。

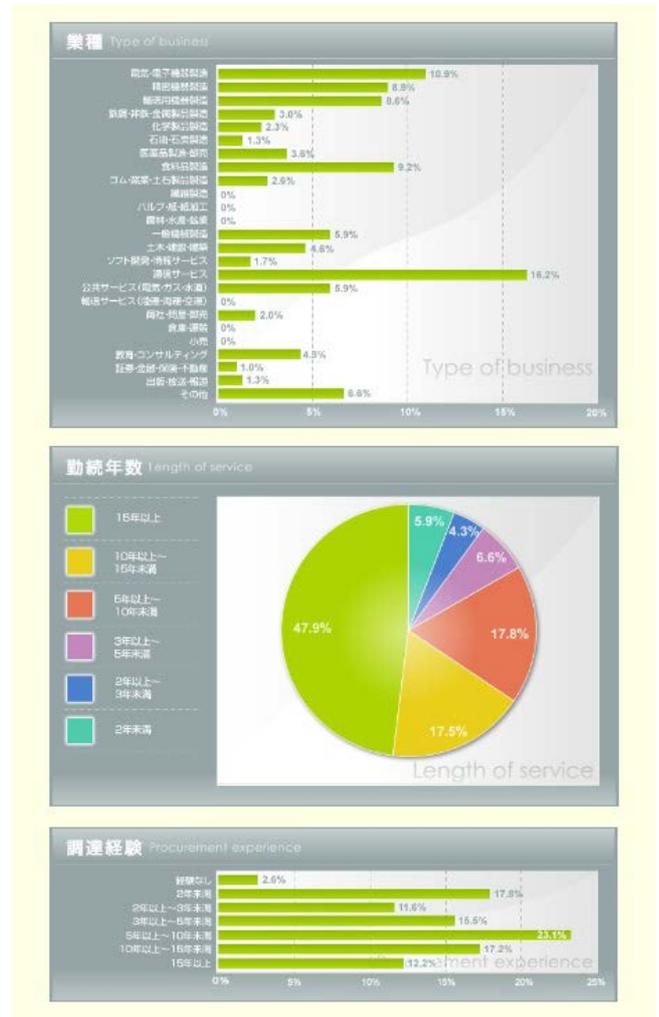
——ありがとうございました。

データで見る CPP 資格試験

最新の CPP 資格試験の試験結果や受験された方の属性、アンケート回答などが CPP 資格制度公式ホームページからダウンロードできますので、ご活用ください。

<http://jma-cpp.jp/>

- 試験結果・受験者属性（CPP・B級）分析レポート
- CPP 資格 A 級試験・2016 年度の試験結果と属性分析レポート



以上